

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	江東区東雲2-1-22 キャッスルビル東雲 2・3階
施設名	みんなのみらいをつくる保育園東雲

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

【食】収穫体験でさつまいもを採ろう

〈テーマの設定理由〉

- ・昨年の収穫体験を経験している子どもたちが楽しみにしている姿があったため
- ・収穫するだけでなく、その先の興味関心につながればよいと思ったため

2 活動スケジュール

- ・バスに乗って収穫体験場へ向かう(園→収穫体験場→園)
- ・収穫体験でさつまいもを収穫する
- ・各家庭持ち帰る

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

- ・活動場所:K'sGardenLab.(千葉県市川市)
- ・移動手段:バス
- ・軍手、レジャーシート、コンテナ

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

- ・園からバスに乗って収穫体験場へ向かう
- ・さつまいもを収穫する
- ・バスで帰園する

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

往路のバスの中ではじめて向かう場所ということやバスに乗っていることにわくわくしたり、期待感を持って過ごすこどもたちの姿があった。収穫体験場はさつまいものツルや葉が生い茂っており、かき分けながら土から顔を出している茎部分を保育者と一緒に探し当て掘り始める。一方でどこから手をつけたらいいのか分からず戸惑うこどももいた。掘り始めるとすぐにさつまいもの一部が見えるが、太くて大きい芋だったためになかなか終わりが見えず、まわりのこどもも大人も巻き込んでひとつのさつまいもを掘った。掘り当てるまでにかなりの時間を要したが、この畑で一番大きい芋であることは間違いなく、通り過ぎる保護者やこどもが「すごーい」「大きいね」と声をかけてくれることもあり、諦めることなく掘り続けた。やっと抜けたときは嬉しさを爆発させるというよりは、安堵したような印象を受けた。他にも自分たちでさつまいもを掘り当てた時は、大きいリアクションをしており収穫体験場の職員や保育者に見せるなど達成感を感じているようだった。持ち帰った芋は一つのコンテナにまとめられていたが、形や大きさから自分で掘った芋を見つけていた。保護者やきょうだいに収穫体験であった話をしたり、さつまいもを見せる時は嬉しそうに得意げだった。また、土の中に虫が多く、昆虫好きのこどもたちはバツヤや幼虫を捕まえて過ごしていた。芋ほり後のバス内では疲れて眠る子が多くいた。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

- ・自然な環境がそのまま生かされた場所だったため、大人も子どもも生い茂っている葉をかき分けて本気で挑む姿があった
- ・虫がたくさんいて、好きなこどもは虫取りや観察も楽しめていた

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	江東区東雲2-1-22 キャッスルビル東雲 2・3階
施設名	みんなのみらいをつくる保育園東雲

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

【食】芋ほりでさつまいもを収穫し、自由に探求しよう

〈テーマの設定理由〉

・収穫したさつまいもを十分に触る機会を設け、次の興味関心に広げるきっかけにするため

2 活動スケジュール

・収穫体験で収穫したさつまいもをこどもの前に用意し、ありのままに感じてもらう
→こどもたちから出てきたやりたいことに対し、その場で叶えられるものは叶える(例:切ってみたい、皮剥きたいなど)
※その日に試せなかったやりたいことは書き留めて、次のこどもたちからの「問い」につなげる(例)植えてみたい(水耕栽培)、でんぷん取ってみたい、食べ比べしたいなど

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

・収穫体験で収穫したさつまいも
(ツルや土がついていたり、形や大きさも様々)
以下の物は、こどもたちの前には準備せず、もし言われたら出せるようにしておく
・タライと水
・まな板、包丁、ピーラー

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

- ・土付きのさつまいもを触る
- ・タライに水を汲み、土汚れを落とす
- ・さつまいもの皮を剥いたり、切ったりする
- ・さつまいもに色を塗る

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

「なにこれー！」「僕／私たちが収穫体験で採ってきたさつまいもだ！」とさつまいもに興味をもち、進んで触ったり持ち上げたりしていた。手についた土を保育者に見せており、保育者は「うわーどろどろだー」と感触を言葉にして共感した。次第にやってみみたいことがはじめ、「洗いたい」「切りたい」「皮をむきたい」と保育者に伝えていた。さつまいもを洗う時は保育者がタライと水の準備を手伝ったが、包丁で切ったり皮を剥いたりするときは、必要に応じてフォローしながらも自分で好きな形や大きさに切っていた。水がどんどん濁っていくことを保育者に熱心に伝えており、保育者は共感して関わった。切っているうちに「食べたい」と言ったので、どう食べたいのかきくと「大学いも・スイートポテト」と意見が出た。今日はできないけど今度この芋でやろうねと約束をする。ある程度切り終わると、「色を塗りたい」と言い始め、絵の具を準備する。野菜スタンプではなく自分の切ったさつまいもに筆で色を塗っていた。どうして色を塗りたいと思ったのか尋ねると「かわいいから」「このあと皮を剥くみたいにしたらどうなるか気になるから」と言っていた。後日、乾いたさつまいもを見せると「へー(こうなったんだ)」と触り、「もういらない」とのことだった。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

- ・こどもたちがのびのびと時間をかけてさつまいもに触れられていて、いい時間になったと感じた。
- ・収穫してきたものを調理する楽しみもできた
- ・さつまいもに色を塗るという斬新な発想に驚かされた

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	江東区東雲2-1-22 キャッスルビル東雲 2・3階
施設名	みんなのみらいをつくる保育園東雲

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

【食】大学いもとスイートポテトを作って食べよう

〈テーマの設定理由〉

・前回のさつまいも探求で、クッキングがしたいという声があったため

2 活動スケジュール

- ・大学いも作り
- ・スイートポテト作り
- ・おやつ時間に出来上がった大学いもとスイートポテトを食べる

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

- ・収穫体験で採ったさつまいも
- ・マッシャー、ボウル、ココット(調味料入れ)、ゴムベラ、スプーン
- ・こどもかっぽう着、調理帽、マスク、手袋

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

- ・調理室でカットしてもらったさつまいもに調味料を入れて和える
- ・調理室でゆでてもらったさつまいもをマッシャーでつぶし、調味料を入れて和える
- ・スプーンで成形する
- ・成形したさつまいもに卵黄を塗る
- ・おやつ時間にできあがった大学いもとスイートポテトを食べる

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

数日前から、特に作りたいと言っていたこどもたちは「作る日まで？」と楽しみにしていた。保育者に作り方を聞きながらひとつのボウルにみんなで交代で調味料を入れたり和えたりする。ふかした芋が調理室から出てきた時には「いいにおい」「早く食べたい」と言っていた。保育者は基本的にこどもの発言に共感したり、楽しみにできるように声掛けをする。マッシャーも1本しかなかかったが、こどもたちは自然と順番を決め交代で行う姿があった。マッシャーでつぶす作業はこどもたちの力では難しそうだったが、隣の友だちと力を合わせたりと工夫しながら作業していた。仕上げに保育者がつぶそうとすると、全員が保育者の手の上からマッシャーを持ち、みんなで仕上げをする場面があった。スプーンでの成形ははじめは苦戦しており、保育者にサポートしてもらいながらだったが、だんだんとコツをつかみ自分たちだけで作れるようになっていた。保育者もこどもたちの横で自分の作り始め、特大のスイートポテトを作ってはこどもたちと「大きすぎるよ」「だって大きいのが食べたいんだもん」「わたしたちも作る！」と和気あいあい楽しんでいた。全体を通してクッキングに興味のなかったこどもも近くに寄りのぞき込むように見るこどももいた。おやつ時にはクッキングに参加したこどもたちはもちろん、作っていないこどもたちも「おいしい」とおかわりを積極的にしていた。中にはいもが苦手が残すこどももおり、クッキングしたこどもに「残したいんだってどう思う？」と聞くと「せっかく作ったから悲しい」「ひとくち食べてたからいいよ」などと、作り手の気持ちも考え、言葉にしていた。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

- ・終始こどもも保育者も一緒に楽しく作業ができ、保育者が一緒に楽しむ姿を見せることはこどもにとって有意義な時間になると感じた
- ・作り手の気持ちを考えるきっかけにもなっていた
- ・自分で収穫して食べるまでの工程ができてよかった
- ・同じさつまいもでも大学いもとスイートポテトと異なる調理法を体験し、食べ比べすることができた

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	江東区東雲2-1-22 キャッスルビル東雲 2・3階
施設名	みんなのみらいをつくる保育園東雲

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

【食】クリスマスケーキを作ってみんなで食べよう

〈テーマの設定理由〉

・絵本に出てくる何段にもなった大きなケーキをみて「作って食べたい」と言ったこどもがいたため

2 活動スケジュール

- ・どういうケーキを作りたいのか、やりたいといった子を中心に考える
- ・買い出しに行く
- ・ケーキを作る
- ・実際におやつで食べる

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

- ・ホットケーキスポンジ(天板3枚分)
- ・フルーツ(バナナ、ブルーベリー、いちご、白桃缶)
- ・生クリーム
- ・ボウル、スプーン
- ・こどもかっぱう着、調理帽、マスク、手袋

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

- ・スポンジに生クリームを塗り広げる
- ・カットフルーツを飾る
- ・調理スタッフにひとり分ずつカットして盛り付けてもらう
- ・下のクラスに届けに行く
- ・おやつで食べる

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

絵本に近いケーキを作るために、生クリームの色も白とピンクがいい／いちごとブルーベリーは絶対に乗せるなど細かいところもこだわっていた。園にできる範囲で子どもの理想を叶えるようにした。他の子どもたちにもこういうのを作りたいんだと発表した時には、「いいね」とみんなが共感しており、企画した子どもも「一緒にやろうね」と独り占めせず自然とチームになっていた。買い出しの日を楽しみにしており、スーパーに買い出しに行くと、たくさん陳列されているフルーツに「どれにしようかな」と目を輝かせていた。「白いいちごはあるかな」「これ家で食べたことあるよ」など自分の知っていることを友だちや保育者と話していた。手についた生クリームを舐めて味見をする子どももあり、「ずるい」と言われながらも笑いがおこっていた。生クリームはある分だけ豪快に乗せていた。スプーンで塗り広げるのは難しそうだったが、力加減の上手な5歳児がなだらかに仕上げている。フルーツも見本をみて「バナナはここだよ」と教え合ったり、「自分もやりたい」少し押し合いをしたりしていた。完成時には写真撮りたいと言って、企画者とケーキと一緒に写真を撮る子がいた。企画した子は下のクラスにサンタとしてケーキを届けてに行き、「クリスマスケーキ作ったよ」と小さい子に声をかけていた。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

- ・夏頃から「クリスマスケーキとして作ろう」と言っており、念願叶って作れたケーキは思い出になっているようだった
- ・クリスマスケーキのサンプルを画用紙で子どもと作ったことが、形として持ち帰る思い出にもなったし、他の子どもの製作意欲を引き出すことにもなりよかったと感じた
- ・ひとりの子どもが中心になって企画していたおり、他の子どもたちはうらましがるかと思っていたが、予想に反して誰も「いいな」「ずるい」など言わず、一緒になって協力して形にしようとしている姿があったことが印象的だった。

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	江東区東雲2-1-22 キャッスルビル東雲 2・3階
施設名	みんなのみらいをつくる保育園東雲

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

【食】ぶりの解体ショーを通して魚に興味をもつ

〈テーマの設定理由〉

- ・自園が豊洲に近く、運河でよく船を見たりしている。その際に「魚食いたい」という発言が見られたため
- ・普段の給食で「肉」か「魚」か区別がついていない様子があったため

2 活動スケジュール

- ・ぶりについて調べる(他にも給食に出る魚にも触れる)
- ・ぶりの解体ショーに参加する
- ・給食で実際にぶりを食べる

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

- ・ぶり1尾(3kg)
 - ・こども手袋
 - ・ブルーシート、マスク、厚手のシート、ダスター
- 【人員】近所の飲食店のマスター

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

- ・ぶり(解体前)に触れ観察する
- ・ぶりを捌いているところを見る
- ・捌いている途中のところを近くで観察する
- ・捌き終わりに内蔵や骨なども触って観察する
- ・調理スタッフに渡し、ぶりの照り焼きとして給食で食べる

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

「まぐろの半分だ!」「思ったよりでっかい」と大きさについて感想を言っていた。マスターが出世魚を話をすると事前に調べていた子どもは「知っているよ、魚編に夏って書くんでしょ」など調べたことを発表していた。実際に手袋をして触ってみると「つるつる」「冷たい」「きもい」など途中で悲鳴を上げながらも思い思いの感想を口にしていた。触りたがらない子には「指でチョンでもいいよ」と挑戦するきっかけになるように声をかけた。保育者は「どんな感じ?」「しっぽは?」とこどもを促して関わった。マスターも「これは歯だよ」と口の中をあけて見せてくれたり、食べた魚を逃がさないように細かい歯があるんだよ、と見せてくれていた。ヒレや尻尾を触って「鳥の羽みたい」と例える子がいたり、目が柔らかいか硬いか気になると言っていた子は実際に触って「ぷにぷにしてる」と言っていた。「生きていたらもっとバタバタしてるよ」「これはもう死んでる」「血が出てるよ、痛そう」と言っていた。捌く作業が始まり骨が切れる音や血が出ているのを見て「これが僕だったら心臓壊れて死んじゃった」「見たくない」「魚の血ってこんなにいっぱい出るんだ」という子どももいた。みんなも怪我すると血が出るでしょ、魚も一緒なんだねと声をかけている保育者もいた。頭が取れたときは「うわー」と全体的に声が挙がり、胃袋や心臓などの内臓をひとつひとつ紹介してもらおうと「心臓?!」と驚いていた。半身が捌き終わり再度手袋をして骨を触った。内臓も触り、マスターと「これはなに?」「胆のうだよ」とやり取りをする子もいた。腹骨をすく時には「あばらだって、みんなのここだよ」と自分たちの骨を触ってわかりやすいように関わる保育者や「こうやってお店で魚料理がでてるんだね」とイメージが繋がるようにしていた。捌き終わった後には興味のある子どもたちが最後まで頭や内臓、ヒレやエラなどを触っていた。マスターに「魚かわいそうじゃないの?」と聞いた子にはおいしく食べてあげれば天国で喜ぶと思うよ、とマスターが返していた。給食ではぶりの照り焼きを食べた。普段魚が苦手で減らしている子も「全部食べる」と意欲的になっていた。実際に食べてみて進まなかった子もいたが、マスターの話を思い出して「魚がかわいそうだから残したくない」と言い、混ぜご飯にしたりタレを多めにかけてもらうなど工夫して食べようとしていた。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

- ・こどもの声になければ、魚を解体しようとならなかったため、保育者にとってもいい経験だった。
- ・ぶりの照り焼きとして試食をしたが、普段苦手な残すこどもも「おいしい」と食べていた。また、食べてみて苦手だった子や量を取りすぎた子もいたが、「ぶりがかわいそうだから残したくない」と食育の結果がでていた。
- ・ヒレが鳥みたいなど子どもらしい発言もあり、感受性豊かなときにこういう機会を設けるてよかったと感じた。
- ・捌かれているところを見るとかわいそうって思うんだなと感じた。食材への感謝を知るきっかけになればいいと思った。
- ・最後の最後まで魚の頭や内臓を触って観察している子もいて、新しい興味関心につながっていいなと思う。
- ・普段1尾全部を見る機会があまりないため保護者にも喜んでもらえた。
- ・後日、魚の図鑑で調べたり、魚のプリントを切り取って魚ごっこをしていた。魚に親しみをもっている姿がみられた。

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	江東区東雲2-1-22 キャッスルビル東雲 2・3階
施設名	みんなのみらいをつくる保育園東雲

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

【食】からあげを作ってみんなで食べよう

〈テーマの設定理由〉

・からあげを作りたいという意見がこどもからあったため

2 活動スケジュール

・からあげの味を決める
・からあげづくりをする(下味付ける)
・目の前で揚がっているところを見る
・給食で食べる

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

・鶏肉
・粉チーズ、ポッカレモン、片栗粉
・こどもかっぽう着、調理帽、マスク、手袋
・マスク

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

・袋に入れられた鶏肉に調味料を入れてもみ込む(味3種)
・片栗粉をまがす
・調理スタッフに渡し、揚がっているところを見る
・給食でからあげを食べる

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

どんなからあげを作って食べたいのか子どもと話していると、「衣がサクサクでレモンかけて食べたい」とはっきりとしたイメージがあった。結果レギュラー味と塩レモン味とチーズ味を作ることになったが、サクサクの衣はセブンイレブンのからあげ棒から、からあげの味はローソンのからあげクンからインスピレーションをもらっていたようだった。当日生肉を扱うため、保育者からの注意事項をよく聞き取り組んでいた。自分の担当した味を決め、ひとり一袋持ってココットから調味料を入れていた。もみ込むより叩きつけるように下味をつけていた。「いいにおいするー！」「今食べるとおなかこわすよ」と子ども同士会話を楽しんでいた。「チーズ味が食べたい人ー？」「私塩レモン」と何味を食べようか相談したり、保育者に「全部食べられるの？」と確認する子どももいた。袋は2重にしていたが、もみ込んでいる内に鶏肉が飛び出してきたり、1枚目の袋が下の方に寄ってしまったりしており、「変になっちゃった」と保育者に助けを求めている。片栗粉をまぐす時は保育者の見本を見て、空気を含ませて振っていた。子どもの年齢によって叩くようにしている子どももいた。からあげを作りたいと言った子どもが当日欠席してしまい、「〇〇くん絶対食べたかったよね」と気持ちを代弁している子どももいた。調理スタッフが目の前で揚げてくれた時には音に大興奮していたが、音が変わったら出来上がった合図なんだよと聞いたこともあり、「みんな静かに！音を聞こう！」とリーダーシップをとる子がでてきていた。においも部屋中に広がり「早くたべたい！」「おいしくなあれおいしくなあれ」と言っていた。給食で好きな味を選び、普段肉を好まない子も「全部味食べる」と意気込んでいたり、レギュラー味しか試さなかった子も他の子がおいしそうに食べているのを見て「やっぱり食べてみたい」と挑戦していた。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

- ・からあげを揚げるタイミングでは全員が食い入るように見ており、作る楽しみ、食べる楽しみを感じているようだった。
- ・子どもたちがやりたいと言ってはじめてのことなので、できればやりたいようにやらせたかったが、今回は衛生上ほとんど保育者がフォローしながら進めることになった。子どもにも生肉の話をして、納得し協力してくれたためありがたく感じた。
- ・「食べない」と言った子が「やっぱり他の味も食べたい」と食べる挑戦に繋がっておりよかった。